

(1)	Penanda Wacana
	<p>長崎・佐世保両市長が選挙戦振り返り 一夜明け 2019統一地方選挙</p> <p>小川直樹、田部愛 原口晋也 森本類 2019年4月23日 03時00分 いずれも現職が4選を果たした長崎、佐世保両市長選。当選から一夜明けた22日、2人が取材に応じ、選挙戦を振り返った。</p> <p>「批判は受け止める」 長崎・田上氏</p> <p>長崎市長選で4選を果たした現職の田上富久氏（62）。自身が進める交流拠点施設（MICE施設）や19階建て新市庁舎などの大型事業や財政状況を、新顔3人が批判したのに対し、選挙戦では「誤解がある」「投資効果が高い」などと説明する姿勢に終始した。</p> <p>「1対3の構図」（田上陣営）となった選挙戦。告示前には元市議の橋本剛氏（49）と元県議の高比良元氏（66）、元市議の吉富博久氏（74）の新顔3人の間では、現職への批判票が分散する懸念などから、候補者の一本化を試みる動きもあったが不調に終わった。</p> <p>次点だった橋本氏は21日夜、支持者を前に「思いが十分に届かなかった」と語った。陣営幹部は「確かに一本化は望ましかったが、すべてが『反田上票』とは限らない。結果を変えるまでに至ったかは分からない」と振り返る。</p> <p>前回の無投票から一転して4人が立候補したうえ、選挙戦の対立軸は明確だったが、投票率は過去最低となった。田上氏を支援した団体の関係者は「MICEや新市庁舎の事業はすでに動き出している。問うなら無投票だった4年前にすべきだったのでは」と話す。</p> <p>当選から一夜明けた22日朝、市内の事務所で取材に応じた田上氏。約8万6千票を得たことについて聞かれ、「得票率が50%を超えたのは心強い。まちの基盤づくりを形にしていきたい」と抱負を語った。</p> <p>SHIKASHI しかし、8年前に得た約15万票からは大幅に得票を減らした。田上氏は「（大型事業などに）ずいぶん理解してくれた感触はあったが、批判は真摯（しんし）に受け止めたい。説明の仕方も工夫していく」と述べた。</p> <p>3期目の4年間だけでも、田上氏が進める事業の中止や見直しを求める目的の住民投票条例の直接請求が5回。この点について、田上氏は「ほかに例がないと思う」と重く受け止める姿勢を示したうえで、議会の議決を必要としないなどの常設型の条例制定に向けて、4期目に準備を進めていく考えを明らかにした。（小川直樹、田部愛）</p> <p>「実績に一定の評価」 佐世保・朝長氏</p> <p>佐世保市長選で4選を果たした現職の朝長則男氏（70）＝自・公推薦＝は22日の会見で、「実績を一定評価された」と話した。</p> <p>選挙戦では、石木ダムの建設やカジノを含む統合型リゾート（IR）といった重要課題が明確な争点にならなかった。また、新顔の田中隆治氏（75）の立候補表明が告示2日前だったこともあり、両者が一緒に政策を語る場もなかった。</p> <p>一部メディアの出口調査でこうした重要課題への反対の意見がかなりあったこ</p>

とについて、朝長氏は会見で「市民に（ダムの必要性が）十分伝わっていない。理解してもらおう以外にない」「IR反対の意見を吸い上げるとかいうよりもまだ十分（全体が）伝わっていない。多少反対があっても頑張る」と話し、改めて揺るぎない決意を示した。

当選が確実となった21日夜には、「批判は批判で受け止めながら私に票を入れてくれた人、支援してくれた人を中心に政策運営をしたい」と話した朝長氏。22日の記者会見で、その真意を問われると「民主主義の基本。少数意見は聞きながら、大多数の意見はさらに大事だ」などと語った。

今回の投票率は過去最低を10ポイント超下回る50・11%で、得票は7万8千票あまり。陣営の目標の「投票率60%」「得票は前々回並みの10万票」を下回った。（原口晋也）

両市長選の投票率 過去最低

長崎、佐世保市長選の投票率はともに過去最低を記録した。前回はいずれも無投票。選挙戦だった前々回と比べ長崎が5・95ポイント減の47・33%、佐世保が10・08ポイント減の50・11%だった。

長崎は78・27%だった1979年から下がり続けている。2000年代に入って6割を切り、今回、初めて5割を割り込んだ。佐世保は03年以降、6割台を維持していた。（森本類）



(2)

Penanda Wacana

かつてブームの「平成地区」、「平成が終わっても...」 金和

山野拓郎 2019年4月1日14時17分

岐阜県関市の「道の駅平成」。駅の会議室に集まった地元の人ら約120人がテレビ中継で新元号「令和」の発表を目にした。

「いよいよ平成が本当に終わると実感した。意外な感じがしたが、漢字としては書きやすいと思った」。集まりを企画した地元住民有志の「ありがとう！平成時代実行委員会」の美濃羽（みのわ）治樹委員長（68）は話した。

岐阜県関市下之保にある平成地区。地区の名前は「へいせい」ではなく「へなり」と読む。30年前に発表された元号と同じ表記だっただけで、当時わずか9戸の小さな集落に、連日多くの人々がやってきた。

特産のシイタケに「平成」の名を付けると飛ぶように売れた。テレホンカード、クッキー。「平成」と付けば何でもよかった。

DEMO

ブームは3年ほどで終わった。でも、住民たちは終わらなかった。

「ここには何もなかったと思っていただけ、山もある、川もあると気づいた」。川島京子さん（63）は振り返る。シイタケだけじゃない、新たな地域の魅力探しが始まった。

無料で足湯を楽しめる「平成足湯治」。高齢者も楽しめる「平成パターゴルフ場」。焼きたてのパンが食べられる「パン工房平成」。平成地区近くにできた「道の駅平成」を中心にスポットが次々生まれた。道の駅に開業当初から勤めた川島さんは「来てくれる人が減ったと言ったって、そもそも元号が平成になる前は観光客なんて1人もいなかったんだから」。

降ってわいたようなブームの後、地元を見つめ、アイデアを出し、協力して作った新しい「平成（へなり）」は、ブームに頼らない地域の魅力になった。地区は現在6戸。高齢化が進み、人口も減ったが、いまでも多くの人々が訪れる。

3月下旬、道の駅平成であった「平成まつり」。地区に住む田畑和義さん（64）は炭火で試食用のシイタケを焼いていた。香ばしいにおいに行列ができた。「30年たっても平成シイタケに行列を作ってくれる。本当にありがたい」と喜んだ田畑さんはこう振り返った。

「平成のおかげで普通ではできない経験をさせてもらった。平成が終わっても、平成地区は永遠だ」（山野拓郎）

(3)

Penanda Wacana

瀬戸内寂聴さん「令和、日本だけでなく世界の幸せも」令和

聞き手・岡田匠 2019年4月1日 21時27分

〈作家で僧侶の瀬戸内寂聴さん（96）の話〉 新元号の発表をテレビで見っていました。令和は「れ」から始まり、響きがいい。「らりるれろ」が入っていると、言葉がきれいに聞こえる。令和と聞いたとき、きれいだなあと、いい印象を持ちました。

今まで中国の古典からとっていたけど、今度は日本の万葉集からとって、それもいいことだと思います。

私は大正11（1922）年5月15日生まれだから、令和になってすぐに97歳になります。大正、昭和、平成、令和と四つの元号を生きることになり、もうあきらめるぐらいの長生きです。

今までの平成がよかったのは、戦争がなかったこと。本当によかった。TADA、今の世の中の状態だと、新しい元号の時代に戦争が起きないか不安です。

物心がついたころ、昭和のはじめは戦争でした。地元の徳島の女学校のとて、修学旅行で行ったのは満州でした。周りの男の人たちが戦争に行くと、おめでとうと

旗をたてて喜んだ。提灯（ちょうちん）行列をしてお祝いした。DEMO、戦争で愛する人が死んでいく。そんな戦争が平成になくて幸せでした。

これからの時代は、日本で暮らす外国人が増えてくる。日本だけ、日本人だけよければ、ではだめ。「人間」の幸せを考えなければいけない。

世界の平和、世界の幸せ。令和がそんな時代になることを願っています。

（聞き手・岡田匠）

(4)

Penanda Wacana

知事選へ 動き活発化

2019年4月24日 03時00分

統一地方選が終わり、埼玉県内では8月に任期満了となる知事選に向けた動きが活発化してきた。7月の参院選には立候補しないことを表明している行田邦子参院議員（53）が23日、知事選への意欲を語った。自民党も独自候補の擁立を急いでいる。県議会関係者の間で、立候補するとの見方が急速に広がっている上田清司知事（70）も同日、定例記者会見で5選に含みを持たせる発言をした。

行田氏が意欲

行田氏は23日、東京都内で記者団に、「支援者には知事選に出馬する意向があることを伝えているが、正式な表明時期はわからない」と語った。関係者によると、行田氏側はすでに複数の自民党県連幹部らに接触を試みている。

同日、上田知事は定例記者会見を開き、行田氏の立候補の意向について感想を求められたが、「私も渦中の1人です。評論家のようなコメントは避けたほうがいいのでしょうか」と当事者であることを強調した。

上田知事 5選に含み

自らの任期を「3期（12年）を超えないよう努める」と定めた「多選自粛条例」を考慮するののかとの質問には、「全くない。（前回選挙で）それ以上に大事なことがあると県民が判断した。選挙は常に有権者の判断が最高のものだ」と語り、出馬に含みを持たせるような発言を重ねた。

上田知事は、5選をめざすかどうか表明する時期について「統一地方選が終わったら」と明言してきた。その理由を、「私さえ出なければ出たいと言う人が、事前に政策提言活動ができない形は避けたい」（昨年8月）、「いつまでもぐずぐずというわけにはいかない」（昨年12月）などと説明してきた。

SHIKASHI

しかし、この日は「天皇の退位や即位があるので終わってから。少し落ち着く時間があると思っている。今の時期ではない」と語った。「私さえ出なければ出たいと言う人」に配慮する必要がなくなったのか聞かれると「そんなに深くは考えていない」と答えた。

自民は独自候補模索

県議会で上田知事と対立する自民は、知事選の独自候補擁立にむけて模索が続く。自民県議団は「条例を守らない知事はありえない」との批判を繰り返している。

上田知事周辺からは「5選に出るには市長会からの要請が必要。みんなから請われて出る形がある」との指摘もあり、立候補に踏み出すとしても、様々な段階を踏むとみられる。（長谷川陽子、小笠原一樹）

上田知事の知事選をめぐる発言

2018年4月3日 5期目のことは一切考えていない。今の任期を全うする（全国知事会長就任について真意を問われ）

8月29日 私さえ出なければ出たいと言う人が何人かいる。そういう人たちに無礼にならない形をとりたい。事前に政治運動や政策提言活動ができない形だけは避

けたい（定例記者会見で進退表明の時期を問われ）

12月26日 忙しいので5月の連休後の方が都合がいいが、できるだけ4月にと
思っている（同）

2019年4月16日 手を挙げると、事務所をどうするか、ポスターをくれと大
騒ぎになるが私は資金がない。手を挙げる時期は遅くせざるを得ない（同）

(5)

Penanda Wacana

佐賀）伊万里市議選、35歳加藤奈津実氏トップで初当選

2019統一地方選挙

2019年4月22日 03時00分

伊万里市議選（定数21）は24人で争った。8年ぶりに複数の女性が立候補し、
このうち新顔の加藤奈津実氏（35）がトップで初当選。「女性でも、子育て中
でも戦えるやり方をしてきた。後に続く人が出てほしい」と語った。

「おじさんたちが集まって何かしているイメージ」（同世代の友人）という市議
会を変えよう、と意気込んでの挑戦。市内は13地区あり、市議選には地区ごとの

候補者が立つ側面も強い。しかし加藤氏は「市全体の人のために頑張りたい」
と、市内あちこちの知り合いを訪ねて回った。

パート社員をしながら8歳、5歳、3歳の娘を育ててきた。選挙期間中は母の手
も借りながら奔走した。

実は4年前にも立候補を打診され、この時は受け流した。今回は「自分が出ない
と女性の新顔は立たない」という危機感に後押しされての立候補だった。

(6)

Penanda Wacana

行田・北本市長選 新顔が現職破る 統一選

2019年4月22日03時00分

北本市長に三宮氏初当選 現王園氏の再選阻む

北本市長選は、3回目の挑戦で前市議の三宮幸雄氏（68）が初当選を果たした。「一軒一軒歩いて皆さんの声を聞いたことが最大の勝因。これからも市民の声を聞いて、行政運営をしたい」と報道陣を前に答えた。

三宮氏は、前回選挙で前市長の対立候補一本化に動き、現王園孝昭氏（72）を支

SHIKASHI

援した。しかし、当選後に現王園氏が、公約の女性副市長を実現できず、議会に提案した「副市長を置かない条例案」を撤回するなどしたこと、前市長の名を刻んだ市庁舎の礎石を名前のないものと取り換えた後、また元に戻すなどしたことを批判。自身とともに前回は現王園氏を支援した市議候補らとも連携し、土地区画整理事業の対象地から発見された縄文期の遺構「デーノタメ遺跡」を国の史跡として保存し、まちづくりの核に据えることなどを訴えて支持を伸ばした。

現王園氏は、市内初のビジネスホテルの誘致・開業実現などの実績を強調し、子育て支援の拡充などを訴えたが及ばなかった。（三宅範和）

(7)

Penanda Wacana

豪雨で決壊の河川敷、「踏みつけウォーク」で堤防強化

小沢邦男 2019年4月14日16時00分

岡山県倉敷市真備（まび）町箭田（やた）地区の住民が、昨夏の西日本豪雨で決壊した小田川の河川敷を歩いて踏み固め、増水時に流れを妨げる雑木や雑草の繁茂を食い止める試みを始めた。「住民の出入りが盛んになれば荒地にならない」。防災と環境保護に役立ち、住民が憩う緑の広場を、お金をかけずにてくてく歩いて整える。

6日午前、県立倉敷まきび支援学校近くの小田川河川敷に、長靴をはいた家族連れら約90人が集まった。一带は大人の背丈を越す草や雑木が広がる。この日は福松橋から下流側約200メートル（幅約100メートル）の約2万平方メートルを踏み歩いた。

主催した箭田地区まちづくり推進協議会が、事前にダンプカーで一部を踏みならしておいたが、それでも川の流れが草木で見えない状態だった。参加者たちは「こんな荒地だったとは」と驚きながら、次々に草木を踏んでいった。川の流れが見えるようになると、「普段はこんなに穏やかな流れなのに……」と西日本豪雨の当時は思い出してつぶやく人もいた。

SHIKASHI

国は豪雨直後、緊急対策として河川敷の雑木の一部を伐採した。しかしそれから数カ月で草木がまた茂った。協議会の片岡展弘さん（65）らは「放置したら森のようになる」と危機感を抱き、住民による踏み歩きを提唱した。

踏まれると、背の高い草木は成長が止まって枯れ、低い草木は根を強く張って丈

夫な芝生のようになるという。片岡さんは「コストをかけずに堤防を強化でき、河川環境を守る意識も共有できる」と期待する。

協議会は「踏みつけウォーク」と銘打ち、毎月1回程度続けていく。次回は5月6日の予定だ。やがて一帯を芝生広場のようにできれば、ウォーキングコースやマレットゴルフ場を整備する構想があるという。

一般参加もできる。問い合わせは協議会（すくらむ班、080・1918・9543）。（小沢邦男）

(8)

Penanda Wacana

桜田氏辞任「任命責任は私に」 安倍首相

2019年4月12日11時22分

安倍晋三首相は12日午前の参院本会議で、自民党議員を東日本大震災の「復興以上に大事」と発言して辞任した桜田義孝前五輪相について、「被災地の皆さまの気持ちを傷つける発言を行い、辞任することになった」と述べた。立憲民主党の牧山弘恵氏の質問に答えた。

桜田氏は大臣就任以来、失言を重ねてきたが、首相は擁護し続けた。任命責任を問われると、首相は「これまで問題を指摘された際は、反省の上で職責を果たすことを求めてきた。（今回の桜田氏の）発言については私から被災地を始め国民の皆さまにおわび申し上げる。任命責任は私にある」と語った。

「付度（そんたく）」発言で辞任した塚田一郎国土交通副大臣について、牧山氏は首相がリーダーシップを発揮して付度があったか調査するよう求めた。しかし首相は「石井（啓一）国交相は『省内で付度や利益誘導はなかったと考えている』と答弁している。私の指示で調査することは考えていない」と述べた。

財務省の公文書改ざん問題などで資質が問われている麻生太郎財務相については、「財務省の一連の問題を踏まえ、組織の立て直しに取り組んでいる。引き続き職責を果たしていただきたい」と語った。

(9)

Penanda Wacana

北海道知事に与党系の前夕張市長が当確 野党候補破る

2019統一地方選挙

2019年4月7日 20時03分

全国11道府県知事選で唯一、与野党の「全面対決」となった北海道知事選は、与党系の新顔で前北海道夕張市長の鈴木直道氏（38）が、新顔で野党統一候補の元衆院議員の石川知裕氏（45）を破り、初当選を確実にした。投票率は58・34％（前回59・62％）で過去最低だった。38歳の鈴木氏は、現職の都道府県知事で全国最年少となる。

財政再生団体に転落し、厳しい人口減少にも直面する夕張市のトップを2期8年務めた。今回の知事選では「ピンチをチャンスに変える」と繰り返し訴え、無党派層にも浸透した。

立憲民主、国民民主、共産、自由、社民が推薦した石川氏は、JR北海道の路線存廃の問題で「**SHIKASHI** 鉄道維持」、カジノを含む統合型リゾート（IR）の誘致については「**SHIKASHI** カジノ反対」を鮮明にした。しかし、鈴木氏に及ばず、野党共闘は実らなかった。



北海道) 大勝の鈴木新知事、出口調査で見えた強さと弱点**2019統一地方選挙**

伊沢健司 2019年4月9日 03時00分

7日に投開票された北海道知事選は、与党系の前夕張市長の鈴木直道氏(38)が野党統一候補の元衆院議員の石川知裕氏(45)を65万7229票(25・42ポイント)の大差で破って初当選した。朝日新聞社がおこなった出口調査からは、鈴木氏の勝ちっぷりと、ある弱点が見えてくる。

今回の知事選は、4期16年つとめた現職の高橋はるみ知事(65)が参院選への転出を決め、16年ぶりに新知事が誕生する新顔一騎打ちの選挙だった。全国の11知事選で唯一、与野党が真っ向からぶつかる構図となり、激戦が予想された。

SHIKASHI

しかし、ふたを開けてみると鈴木氏の大勝だった。前回2015年知事選では高橋氏と、野党が支援した候補との差は約35万票。北海道は「民主王国」とも言われるほど野党勢力が強かったが、今回の知事選では大きく差を広げられた。

出口調査は7日、道内120カ所で実施し6305人から有効回答を得た。その結果を見ると、鈴木氏への幅広い支持がわかる。

鈴木氏は推薦を受けた自民と公明それぞれの支持層から8割超の支持を得たほか、無党派層からも6割近くの支持を集めた。さらに立憲民主支持層の17%、共産支持層の24%からも支持を得て、野党にも食い込んだ。

女性の支持は64%で、男性と比べ高かった。加えて、投票のときに一番重視したことを「人柄や印象」と答えた人の75%、「経歴や実績」と答えた人の70%から支持を集めた。全国最年少知事となる38歳の若さ、財政破綻(はたん)した夕張市のトップとして再建に道筋をつけた実績が奏功したようだ。

TADA

ただ、鈴木氏の弱点も垣間見える。投票のときに一番重視したことの中で、もっとも多い回答は「政策や公約」だった。この回答の層では鈴木氏支持が49%、石川氏支持が51%となり、鈴木氏は伸び悩んだ。

「鉄路維持」「カジノ反対」「脱原発」といった石川氏の明確な主張に対し、鈴木氏は「道民目線」という理念を訴えた。政策を期待する人たちは鈴木氏にやや厳しい目を向けたようだ。

とはいえ、石川氏が態度を鮮明にし、争点化した政策が、票に結びついたとは言えない。投票したときに重視した政策順に見ると、鈴木氏は「人口減少対策」で70%、「JR北海道の路線見直し」で64%、「泊原発再稼働」で45%、「カジノを含む統合型リゾート誘致」で50%の支持を集めた。(伊沢健司)

(11)

Penanda Wacana

新会長報道の山下氏、ゴジラの奥襟つかみ組み合う

波戸健一 2019年4月6日12時38分

日本オリンピック委員会（JOC）の山下泰裕常務理事が6日、福岡市内で取材に応じ、次期会長に就任する見通しとなったという朝日新聞などの報道について、「非常に困惑している。私としては仮定の話に答えることはできない」と語った。

山下氏は、「（JOC理事会のある）7月4日は、私が会長になっても、他の方が会長になられても、私は必ず記者の皆さまの前でいろいろな質問に対してお答えしたい」と話した。

この日は、全日本柔道連盟会長として、柔道日本代表の新愛称「ゴジラジャパン」をPRするため、全日本選抜体重別選手権が開かれている福岡国際センターの入り口でゴジラと競演。左手でゴジラの奥襟をつかんで組み合うと、「力強いね」と笑顔を見せた。

「私がちっちゃい頃のゴジラやモスラは悪役だった」と山下氏。しかし、映画「シン・ゴジラ」を2度見て印象が変わったそうで、「昔の悪役から、今では正義の味方のようにも感じられる」と日本柔道の新たなイメージキャラクターに満足そうだった。

SHIKASHI

今大会は、今年の世界選手権（8月25日開幕、東京・日本武道館）の代表最終選考会で、東京五輪の代表争いにも大きく影響する。山下氏は「（ゴジラのように）畳の上では荒々しく、闘志あふれる試合をしてほしい」と選手たちに期待を寄せた。（波戸健一）



(12)

Penanda Wacana

長野) 県議選、18歳も初の投票 どうなる投票率

2019統一地方選挙

鶴信吾 2019年4月6日03時00分

統一地方選の前半戦である長野県議選が7日、投開票される。開票の結果とともに各陣営が気をもむのは投票率だ。前回まで10回連続して下がり続けている。今回は、選挙権年齢が18歳以上に引き下げられて初めての県議選。若者の関心の行方も注目される。

「投票率が5割を切るということは、県民の半数以上が参加していない選挙だということ。果たしてそれで県民の総意だと言えるのか。私は言えないと思う」

候補者のひとはこう漏らす。投票率が低ければ、堅い支持組織を持つ候補者が有利になる。「ぜひ多くの人に投票してもらいたい」と話す。

前回(2015年)の県議選の投票率は48・92%で、初めて5割を切った。1979年の81・34%以降、10回連続で下がり続けているのが現状だ。

前回の投票率を年齢別に見ると、20～24歳が最も低い23・96%。25～29歳は32・64%でそれに次いだ。最も高かったのは70～74歳の68・79%だった。年齢層が下がるにつれて投票率も下がる傾向がある。

2016年には、選挙権年齢が20歳以上から18歳以上に引き下げられた。

SHIKASHI

しかし、昨夏の県知事選の投票率を見ると、18、19歳が30・21%と低い水準にとどまった。全体では43・28%だった。

一方で、有権者のうち投票日より前に投票する「期日前投票」に足を運ぶ人の割合は増加傾向にある。県議選で初めて期日前投票が行われた07年には7・30%だったが、11年には10・21%、15年には12・02%に増加した。今回は、告示翌日の3月30日からの4日間で、計6万4368人(4・49%)が投票した。前回の同じ時期を1・41ポイント上回っている。

都合の良い日に投票ができる便利さなどが浸透してきており、県選挙管理委員会も積極的な利用を呼びかけている。

また選管は、若者世代にターゲットを絞り、県内約70店舗のカラオケ店で投票を呼びかけるCMを放映している。さらに、啓発用ポスターを自動車教習所にも掲示した。「高校を卒業したら、まず車の免許を取るという人をターゲットにした」と県選管の担当者は話す。

5日朝、JR長野駅前。県選管や長野市選管、ボランティアら約50人が出て道行く人にポケットティッシュを配って投票を呼びかけた。活動には信州大の学生サークル「信州投票率上げようプロジェクト(STAP)」のメンバー3人も参加した。そのひとり、4年生の杉山智輝さん(21)は「若者が投票に行かないと、県の政策が高齢者向けのものばかりになってしまう。子育てや教育分野にも力を入れてもらうためにも、10代から積極的に投票に行ってほしい」と話した。(鶴信吾)

(13)

Penanda Wacana

改元のシステム改修、影響不透明 テスト不十分の企業も

令和

田嶋慶彦 2019年4月1日 23時12分

改元1カ月前の元号発表となったのは、官民の情報システムを改修する時間を確保

SHIKASHI

するためだ。しかし、当初政府が想定した発表日程より大幅に遅い時期となった。政府系システムの改修は間に合うメドが立ったとするが、民間では5月1日以降、どのような影響が出るか見通せない。国民生活に支障が出る可能性もある。

「非常にタイトな日程の作業だ。『2000年問題』より、新元号対応の作業量の方が比較にならないほど多い」。2月中旬、コンピューターの基本ソフト「ウィンドウズ」を提供する日本マイクロソフトの担当者は、新元号対応の企業向け説明会で注意を呼びかけた。

平成への改元時と比べてシステムの規模ははるかに大きく複雑になった。政府は天皇陛下の退位特例法が成立した17年6月ごろ、システム改修の時間を確保する

TOKOROGA

ため、18年夏の新元号発表を検討した。ところが、平成のうちに新しい元号を公表すると、いまの天皇陛下との間で「二重権威を生み出すおそれがある」との声が、政権の支持基盤である保守層から出た。政府は一定の配慮をせざるを得ず、発表時期は正式に決めないまま「1カ月前を想定」という形で準備に入った。

「本来なら3カ月かかるところを、何とか1カ月で間に合わせる」（政府関係者）という綱渡りの作業になるが、改修が必要な576の政府のシステムは、改元後初の平日となる5月7日までに対応できるメドがついた。

一方、経済産業省が民間企業を対象に行ったアンケートによると、改修の作業計画ができていない企業でも、48%が改修後にきちんと動くかどうかのテストを計画していない。5月1日以降、トラブルなく進むかは不透明だ。（田嶋慶彦）

(14)

Penanda Wacana

富山) 公共施設再編へ「2040会議」立ち上げ 魚津

高津守 2019年4月20日 03時00分

財政再建に取り組む富山県魚津市は、公共施設の再編に20～40代の若い市民の意見を反映させるための「魚津2040会議」を立ち上げた。18日に初会合があり、市民20人が参加。市総合体育館や魚津埋没林博物館など10施設について、維持した場合と廃止した場合の問題点や代替措置について意見を交わした。

同市は、年間5億円の財源不足を2020年度からの5年間で解消することを目指す。今年9月をメドに、公共施設再編方針や市職員の定員管理計画を見直し、財政健全化計画をまとめることにしている。

財政健全化計画のまとめに向けて同市は、有識者らに意見を求める「市行財政改

TADA

革推進委員会」を設けている。ただ、公共施設については将来にわたって維持経費を負担する若い世代の意見を聞く必要があるとして、2040会議を立ち上げることにした。（高津守）

維新、大阪市議会は過半数届かず 府知事・市長選は勝利**大阪ダブル選挙・都構想 2019統一地方選挙**

2019年4月8日02時01分

大阪府知事と大阪市長のダブル選は7日投開票され、知事選は前大阪市長の吉村洋文（ひろふみ）氏（43）、市長選は前大阪府知事の松井一郎氏（55）が、いずれも初当選を決めた。地域政党・大阪維新の会公認の両氏が勝ったことで、看板政策の大阪都構想が前進する可能性がある。都構想実現を左右する府議選と大阪市議選のうち、府議選で現有議席を10以上増やして過半数を獲得した。市議選も現有議席を上回ったものの過半数には届かなかった。

自民党や公明党府本部が推薦し、「反維新」勢力が支援するなどした、知事候補の無所属で元府副知事の小西禎一（ただかず）氏（64）と、市長候補の無所属で元自民大阪市議の柳本顕（あきら）氏（45）は敗れた。

吉村氏は当選を決めた7日夜の会見で「都構想への再挑戦に踏み出していきたい」、松井氏は「都構想に反対の意見も聴きながら丁寧に進めたい」と述べた。

一方、公明府本部の佐藤茂樹代表は7日夜、「民意を真摯（しんし）に受け止める。都構想にどう対応するか検討したい」と話し、協議再開を示唆した。

投票率は知事選が49・49%（前回45・47%）、市長選が52・70%（同50・51%）だった。

都構想は大阪市を廃止して東京23区のような特別区に再編する制度改革。都構想案の是非を問う住民投票の実施には府・市両議会で議決が必要だ。維新は市議会で過半数を得られなかったが、都構想案を作成する府市の法定協議会で単独過半数を占めることが確実に^{TADA}なった。ただ住民投票の実施には、引き続き公明の協力が必要になる。

今回のダブル選は、住民投票の実施時期をめぐって公明との交渉が決裂したのを受け、松井、吉村両氏が3月に任期途中で辞職表明したため実施された。維新は知事・市長のポストを入れ替えて立候補する異例の「クロス選」を仕掛けた。

維新代表の松井氏と維新政調会長の吉村氏は選挙期間中、府と市が一体で進めた2025年大阪・関西万博の誘致成功などの実績を強調し、「（府と市が）バラバラにならないようにする仕組みを作るのが都構想」（松井氏）と訴えた。

これに対し、小西、柳本両氏は「都構想の議論に終止符を打つビッグチャンスだ」（柳本氏）などと訴え、反維新勢力として組織的な選挙運動を展開。国民民主党府連も支持、立憲民主党府連は自主支援、共産党は自主的支援とした。

反維新側は、都構想への反対やクロス選という選挙手法への批判などを打ち出して選挙戦を展開。維新の政治姿勢を厳しく追及したが、支持は広がらなかった。維新側は、維新以外のほとんどの政党が支援する相手陣営を「野合」と批判。松井、吉村両氏の知名度も生かし、若者や無党派層を意識した選挙戦を展開するなどして票を積み上げた。

大阪で知事・大阪市長のダブル選と同時に大阪府議選と大阪市議選が行われるのは1971年以来48年ぶり。

維新は選挙前から両議会で最大会派だったが、議席数は過半数に達していなかった。今回の選挙では公認候補として府議選（定数88、過半数45）に55人、市

議選（同 8 3、4 2）に 4 3 人を擁立した。反維新陣営の中心になっている自民は、国政で連立を組む公明と合わせて両議会で過半数を獲得することを目標にしていた。

(16)

Penanda Wacana

瀬戸内寂聴さん「令和、日本だけでなく世界の幸せも」

令和

聞き手・岡田匠 2019 年 4 月 1 日 21 時 27 分

〈作家で僧侶の瀬戸内寂聴さん（96）の話〉 新元号の発表をテレビで見っていました。令和は「れ」から始まり、響きがいい。「らりるれろ」が入っていると、言葉がきれいに聞こえる。令和と聞いたとき、きれいだなあと、いい印象を持ちました。今まで中国の古典からとっていたけど、今度は日本の万葉集からとって、それもいいことだと思います。

私は大正 11（1922）年 5 月 15 日生まれだから、令和になってすぐに 97 歳になります。大正、昭和、平成、令和と四つの元号を生きることになり、もうあきれざるぐらいの長生きです。

今までの平成がよかったのは、戦争がなかったこと。本当によかった。^{TADA}ただ、今の世の中の状態だと、新しい元号の時代に戦争が起きないか不安です。

物心がついたころ、昭和のはじめは戦争でした。地元の徳島の女学校のとき、修学旅行で行ったのは満州でした。周りの男の人たちが戦争に行くと、おめでとうと

旗をたてて喜んだ。提灯（ちょうちん）行列をしてお祝いした。^{DEMO}でも、戦争で愛する人が死んでいく。そんな戦争が平成になくて幸せでした。

これからの時代は、日本で暮らす外国人が増えてくる。日本だけ、日本人だけよければ、ではだめ。「人間」の幸せを考えなければいけない。

世界の平和、世界の幸せ。令和がそんな時代になることを願っています。（聞き手・岡田匠）

(17)

Penanda Wacana

ベネズエラでクーデターの動き 反政権派、軍に決起訴え

サンパウロ＝岡田玄 2019年4月30日 21時12分

独裁支配を強めるマドゥロ大統領と反マドゥロ派の対立で政情不安が続く南米ベネズエラで30日、暫定大統領就任を宣言したグアイド国会議長が首都カラカスの空軍基地に入り、兵士らに反政権で決起するよう呼びかけた。政権側は鎮圧する構えだ。軍はマドゥロ氏の有力支持基盤。呼びかけに応じて離反が進めば、同氏には大打撃になる。

現地の報道や住民によると、グアイド氏は自宅軟禁中の野党指導者レオポルド・ロペス氏と共に30日早朝、反マドゥロ派の兵士らに守られながらカラカス中心部の空軍基地に入った。2人は「勇気ある軍人が私たちの元に駆けつけた」と強調し、兵士らに政権支持をやめるように訴えた。グアイド氏はその後、基地を出て演説し、マドゥロ政権打倒へ行動を呼びかけた。

これに対し、パドリノ国防相はツイッターに「軍は憲法と正統な統治者を守る」と投稿し、軍はマドゥロ政権を支持すると断言。基地周辺では政権側の治安部隊と反マドゥロ派が衝突し、混乱が続いている。

軍関係者によると、軍では盗聴などで兵士が離反しないように監視しているとい

う。^{DAGA} **だが**、食料不足に苦しむ下級兵士の間では水面下で政権を批判する声広がっており、上層部は危機感を強めているという。(サンパウロ＝岡田玄)

(18)

Penanda Wacana

スペイン総選挙、新興右翼政党が議席 与党は第1党確保

マドリード＝足田多揚 2019年4月29日 10時01分

スペインの総選挙(下院定数350)は28日に投票があり、即日開票された。開票率99.9%時点で、福祉国家の再建を掲げたサンチェス首相率いる与党・社会労働党(中道左派)が123議席を獲得し、第1党の座を確保した。

不法移民の排除やカタルーニャ州の独立に強硬な反対姿勢を取る新興右翼政党ボックス(VOX)は、24議席を得て、2013年の結党以来初の国会進出を果たした。

社会労働党と競ってきた2大政党のひとつ、野党・国民党(中道右派)は66議席で、134議席から大きく後退する惨敗を喫した。

サンチェス首相は28日夜、党本部で「社会労働党とともに、我々の未来も勝利

した」と宣言。^{DAGA} **だが**、左派ポデモスの議席35をあわせても、過半数の176に届かない。どういう政党と連立を組んで政権樹立をめざすのかが今後の焦点になる。

スペイン総選挙は、5月下旬の欧州議会選の行方を占うものとしても注目された。極右とも呼ばれるVOXが初議席を得たことで、欧州での右翼ポピュリズムの広がりが改めて浮き彫りになった。(マドリード＝足田多揚)

(19)

Penanda Wacana

山口) 「しゅうニャン市」NO 圧勝 1万票の差

2019統一地方選挙

三沢敦 2019年4月23日03時00分

山口県周南市長選の投開票から一夜明けた22日、初当選した元県議の藤井律子氏(65)に当選証書が与えられた。市のPR事業「しゅうニャン市プロジェクト」の廃止を前面に掲げた戦術は、現職の木村健一郎氏(66)に1万票近くの差をつける勝利となった。

「厳しい選挙だったが、暖かい風を感じて7日間を走り抜けることができた」

この日朝、事務所で報道陣の取材に応じた藤井氏は木村氏との一騎打ちをこう振り返った。

藤井氏が掲げた公約は多岐にわたる。^{DAGA}だが、選挙戦では「しゅうニャン市廃止」と「官製談合の根絶」を中心にした。9592票の大差をつけての勝利に、「市民が普段思っていることを口にしたからでは」と藤井氏はみる。

しゅうニャン市廃止の訴えが支持された理由について、政党関係者の1人は「好き嫌い以前の問題として、プロジェクトそのものが、緩みの目立つ行政の象徴に映ったのでは」と話す。



(20)

Penanda Wacana

宮崎) 5市議選、1町長選、9町村議選、あす投開票

2019統一地方選挙

松本真弥 2019年4月20日03時00分

統一選後半戦で選挙戦となった5市議選、1町長選、9町村議選は21日、投開票される。川南町長選は現職と新顔の一騎打ち。人口減少対策や「ハコモノ」事業への姿勢などを巡り、それぞれの選挙で論戦が繰り広げられている。

議員選があるのは、宮崎、延岡、日南、日向、串間の5市と、三股、高原、綾、新富、木城、川南、西米良、諸塚、椎葉の9町村。

小林市議選、木城町長選、諸塚村長選、都農町議選は無投票だった。

県内最多の56人が立候補している宮崎市議選(定数40)。ベテランを含む多くの現職が引退し、その票を巡る戦いが白熱している。

立候補したのは現職31人、元職5人、新顔20人。欠員1に加え、当選10回を誇るベテラン議員や議長経験者ら8人が引退。少なくとも約4分の1の9議席が入れ替わる。

引退を決めたベテラン議員は「地域のインフラ整備もかなり進んだ。やりきったという思いもある」と引退の理由を話した。別の議員は病気や高齢を理由に議会を去ることを決めたという。「重鎮が居なくなることで議員間の調整がうまくいくか

DAGA
気がかり。だが、若い力で議論が活性化すれば良い」と期待を寄せた。

引退する複数の議員は「後継指名」をしておらず、票の行方は流動的だ。

ある議員は「前回選挙の上位当選者は残っている。引退する議員の地盤の票が割れて新顔が混戦になるのではないかとみる。

相次ぐ現職の引退を受けて、ある新顔候補は「頑張れば当選できるというチャンスと捉えている」と意気込む。

前回選挙では全議席の約8割を現職が占めた。現職のある候補は「現職有利と見ているが、投票率が下がると分からない」。別の現職は街頭演説で「議会が新顔ばかりになると(市長など)執行部の力が相対的に強まる」と訴え、自身への支持を呼びかけている。(松本真弥)